

第14回日本総合歯科学会総会・学術大会報告

紙 本 篤 (大会長)
古 地 美 佳 (準備委員長)
関 啓 介 (実行委員長)

日本大学歯学部にて開催予定であった第14回学術大会は、新型コロナウイルス感染症収束の見定めが難しく、理事会にて協議の結果オンライン・誌面開催へと舵を切ることになりました。“ポストコロナ×総合歯科学”のテーマをかかげ、特別講演1題、教育講演1題、シンポジウム1題を企画し、令和3年10月29日(金)から11月6日(土)までの期間、9日間にわたりWEB開催されました。オンライン上の仮想学会場には211名が参加し、ポスター発表は計33題と活発な討論が行われました。

オンデマンド配信の内容として用意された動画には、鳥井康弘先生(日本総合歯科学会理事長)および紙本篤(大会長)の挨拶のほか、特別講演では「新たな歯科需要と総合歯科的な専門医」と題し、柳川忠廣先生(日本歯科医師会副会長)より詳細な解説がなされました。教育講演の「ニューノーマルにおける口腔健康管理の重要性—口腔と呼吸器疾患との関連性—」では、今井健一先生(日本大学教授)から新型コロナウイルス感染症と口腔には密接な関連性があるという示唆と問題提起がなされ、コロナ禍で苦しむ誰もが知りたい内容が興味深く提示されました。シンポジウムは「コロナ禍における総合歯科医療の実践」をテーマとし、新田浩先生(東京医科歯科大学教授)、森田浩光先生(福岡歯科大学教授)、岡本佳明先生(広島県開業)の演者から、それぞれの立場や視点に基づいた臨床上的取り組みや最新情報が提供され、幅広い活動内容をご講演いただきました。



紙本篤大会長挨拶



柳川忠廣先生による特別講演

研修歯科医による若手ポスター発表は10演題あり、審査の結果、最優秀若手ポスター賞として田中理生先生（大阪歯科大学）、優秀若手ポスター賞は藤井美景先生（九州歯科大学）、信太実有先生（九州大学）、高野日南子先生（日本歯科大学新潟病院）が受賞しました。また従来過去の学術大会で行われていた優秀口演はポスター発表形式に変更され、2題の発表があり優秀ポスター賞として張君璋先生（日本大学）が受賞しました。一般ポスター発表も21題と、オンライン開催のような仮想ポスター展示ブースを用意し好評をいただきました。

従来、懇親会の目玉であった授賞式はインタビュー形式の動画ファイルを作成し会期中に閲覧できるようにしており、すこしでも臨場感を出すよう工夫いたしました。



オンライン上での授賞式の様子（鳥井康弘理事長から表彰状授与）

開催方法の変更による懸念もありましたが、多数の視聴回数をいただき、これまでの学術大会に引けを取らない結果を残せたと思います。あらためまして、ご参加いただきました皆様方に心より御礼申し上げます。

最後に、本学術大会を開催するにあたり、ご指導賜りました理事長をはじめ理事・役員の皆様、オンライン配信および視聴管理につきまして多大なるご支援・ご協力を賜りましたライノコネクト社の高橋諒大氏、特別講演、教育講演、シンポジウムにて講師を快くお引き受けいただきました皆様、さらに協賛いただきました企業の皆様、誌上を借りまして深く御礼申し上げます。